



<対象製品品番はカタログなどでご確認ください>

施工店様へ

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- この説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。
- 有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 施工完了後この説明書を取扱者様へお渡しください。

安全上のご注意 けがや事故防止のため、以下の点は必ず守ってください

警告

施工・点検時には必ず主電源を切る

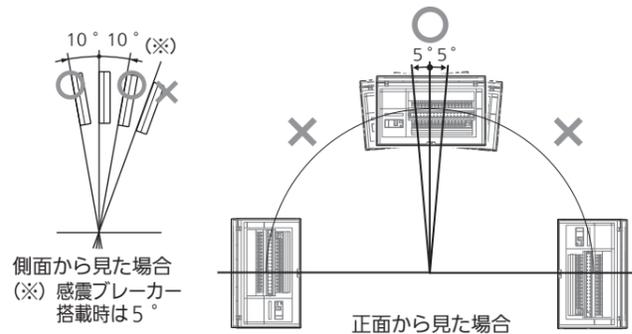
電源が入ったままの施工は感電の原因になります。

注意

- 端子ねじは適正締付トルクで確実に締付ける
端子ねじのゆるみは発熱・発火の原因になります。
- 電源側プラグイン端子はバーへ確実に差込む
差込みが不十分な場合、発熱・発火の原因になります。
- 負荷側速結端子に接続する場合、オレンジ色の接続完了表示が出るまで、電線を奥まで確実に差込む
差込みが不十分な場合、発熱・発火の原因になります。
- 負荷側速結端子への接続電線は、変形・腐食のないものを使用する
守らないと、発熱・発火の原因になります。
- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続する
相を間違えると異常電圧が発生し、発熱・発火の原因になります。
- 主幹ブレーカの過電圧検出リード線は、中性バーから取り外さない
取外すと中性線欠相検出による過電圧保護ができません。

設置に関するご注意

- 住宅分電盤は、容易に操作・点検のできる場所に取付けてください。戸棚・便所・浴室などの内部には取付けないでください。
- 高温・多湿・じんあい・腐食性ガス・振動・衝撃など、異常な環境での使用は避けてください。機能を損ないます。
- 屋内で使用してください。屋外や水のかかる場所には使用できません。
- 住宅分電盤を取付ける壁面は、平らな面を選んでください。凸凹のある場所へ無理に取付けしないでください。
- 住宅分電盤は、右図に示す範囲内で使用してください。
- 住宅分電盤の前面には、障害になるようなものを置かないでください。



施工に関するご注意

- 住宅分電盤は、取付場所周辺で使用されている木工用ボンドなどの接着剤が完全に乾燥してから取付けてください。
※ 接着剤の揮発成分により、ブレーカの品質を損なうおそれがあります。
- この住宅分電盤は、単相3線式 (1 φ 3 W) 100/200 V専用です。
- 盤定格電流を超える主幹ブレーカは取付けないでください。
- 導電部の接続ねじは、適正締付トルクで増締めを行ってください。
- 電線サイズは最大負荷電流に適合したものを使用してください。
- 主幹ブレーカ・分岐ブレーカに接続する電線サイズは右表を参考に選定ください。
(右表は参考資料です。定格電流に対し、電線の種類に応じた適切な電線サイズを選定ください)
- 主幹ブレーカ2次側端子および接続部からの分岐配線は行わないでください。
- 主幹ブレーカの過電圧検出リード線は、中性バーから取外さないでください。
(取外すと中性線欠相検出による過電圧保護ができません)

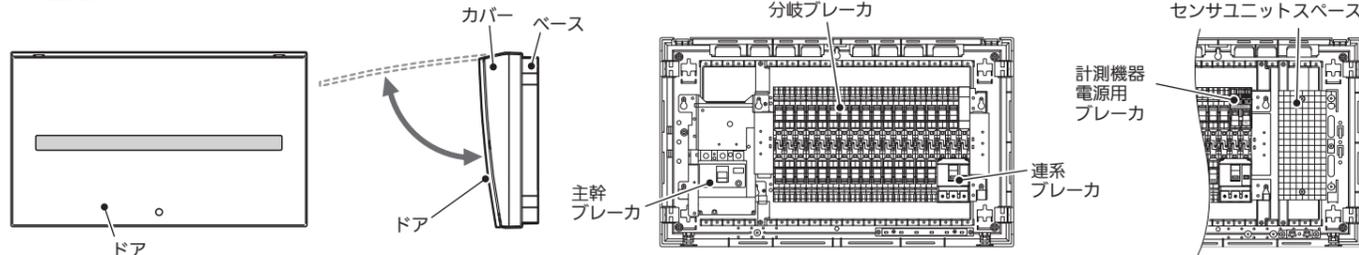
分岐・主幹ブレーカ適合電線サイズ

ブレーカの定格電流	電線サイズ	
分岐	15 A	φ 1.6 φ 2.0
	20 A	
	30 A	φ 2.6
主幹	40 A	8~14 mm ²
	50 A・60 A	
	75 A	22~38 mm ²
	100 A	

使用上のご注意

- 線間電圧による感電は、漏電ブレーカで保護できません。
- 絶縁抵抗測定は下記の点に注意してください。
① 主幹、分岐、連系ブレーカはOFFにしてください。
② 測定は充電部-大地間のみとしてください。線間の測定は漏電ブレーカが故障します。
- あかり機能付商品の場合、搭載のハンディホーム保安灯の明るさセンサーは「切」にしてください。
(「自動」では使用できません。誤動作などの原因になります)

各部のなまえ



1 住宅分電盤取付け上のご注意

- 本体の取付けは、天井面から約60 mm以上・両側面から15 mm以上、下側面から30 mm以上の間隔を空けてください。(右図参照)
- ベースをねじで取付ける際、取付穴以外でのねじ止めは避けてください。ベース変形の原因になります。

【露出取付け】

- 裏面配線時はベースの配線孔に合わせて壁に穴を開けてください
【注意】 気密性の高い住宅では壁内の気流により分電盤の通気孔からほこりが排出する場合がありますので「露出化粧枠」(下記参照)のご使用をお奨めします。

【半埋込取付け】

- 壁に半埋込用の穴を開けてください。(右図参照)
【注意】 ベースの底面に合わせて穴を開けないでください。ベースの底面寸法と半埋込穴寸法は異なります。

- 上側面からケーブルを引き込む際、主幹用ケーブルが太い場合は引込みを容易にするため、右図のように外装ケーブル被覆をむいて電線にして入線してください。



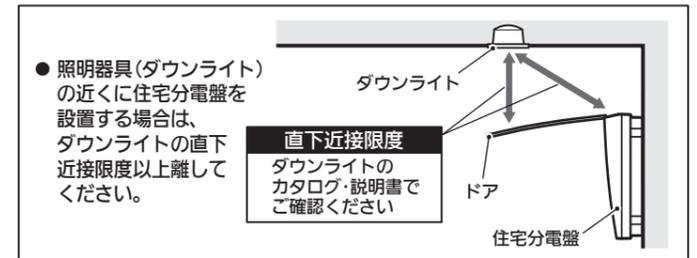
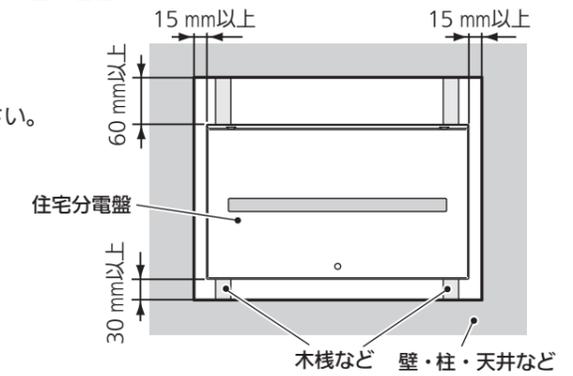
【化粧枠(別売)】

- 露出取付け時のベース外形の段差(半埋込しろ)を補正したい場合、別売の『露出化粧枠』をご使用ください。また半埋込時、穴開け寸法より大きな穴を開けた場合の壁面処理用(ただし、化粧枠外形寸法までに限る)に『半埋込化粧枠』をご使用ください。(品番はカタログなどでご確認ください)

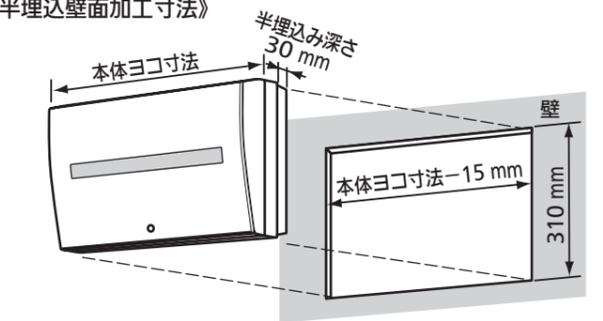
【石こうボード用取付はさみ金具〔露出・半埋込取付兼用〕(別売)】

- 別売の石こうボード用取付はさみ金具をご使用いただく下地工事なしで石こうボード壁・新建材壁に直接簡単に取付けできます。当社品番：BQS900(9~15 mm壁用) BQS901(16~25 mm壁用)

《上下左右の間隔》

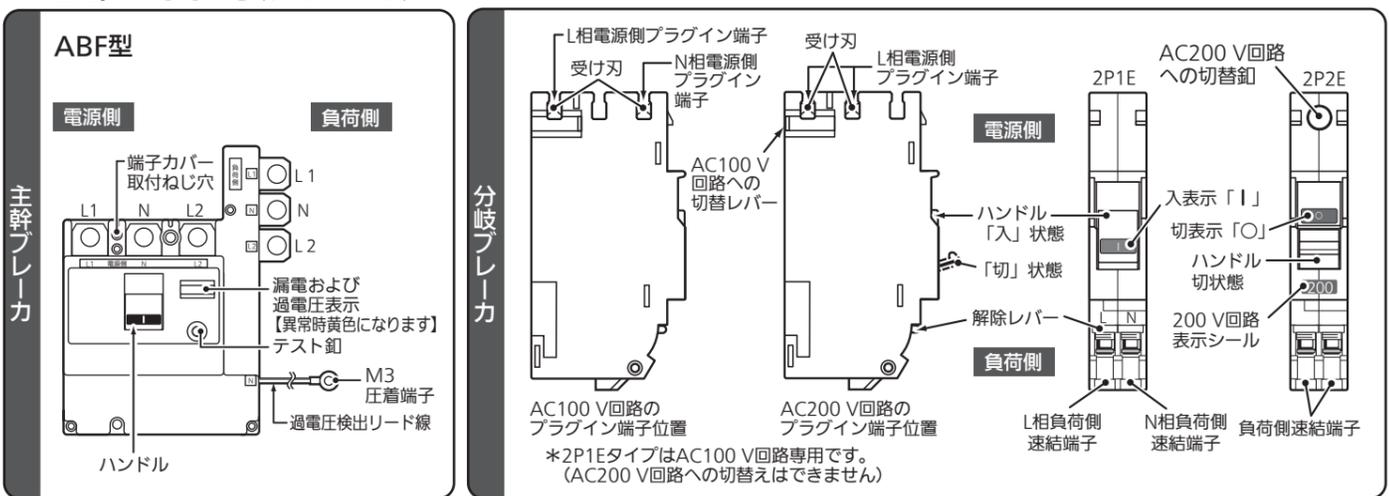


《半埋込壁面加工寸法》

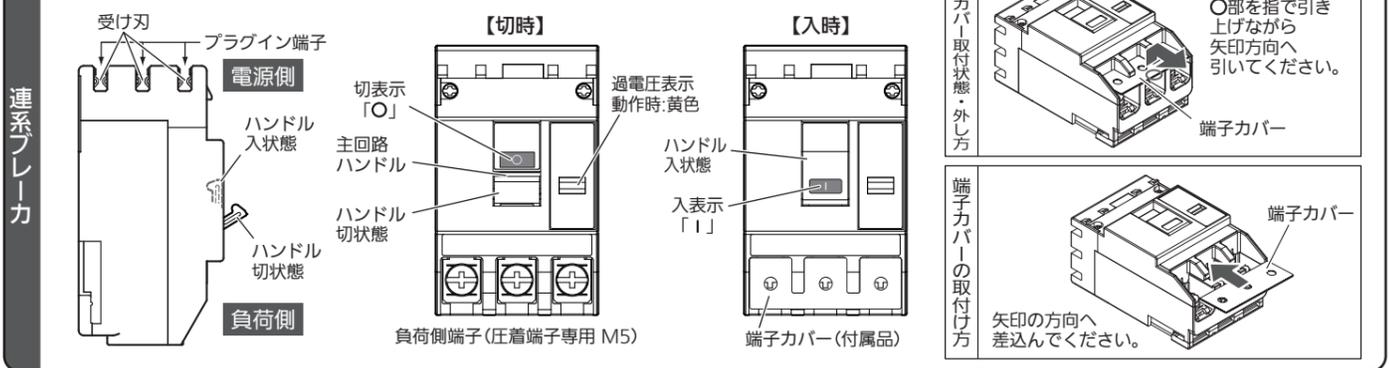


2 ブレーカについて

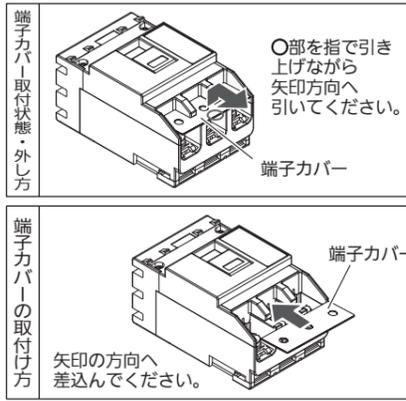
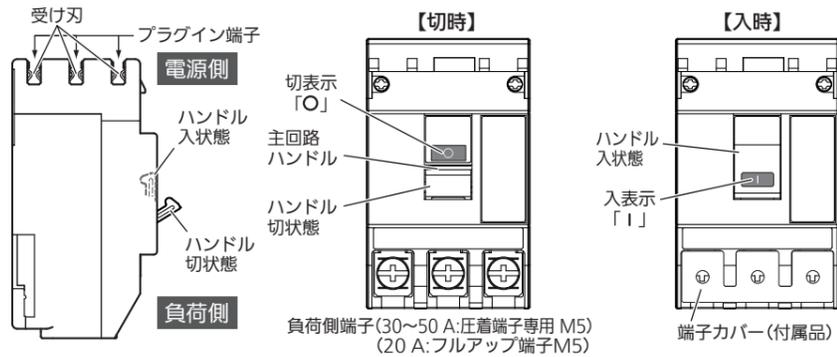
各部のなまえ(ブレーカ)



SH-30V・SH-50V 品番 SH-30V 30 A : BSH33035・SH-50V 40 A : BSH34035 50 A : BSH35035 《太陽光2次連系用》



SH-50G 品番 SH-50G 20 A : BSH3203GK 30 A : BSH3303GK 40 A : BSH3403GK 50 A : BSH3503GK
 (太陽光、ガス発電/燃料電池2次連系用)



【分岐ブレーカ・計測機器電源用ブレーカ速結端子への電線接続について】

*Cu(銅)単線専用(より線の場合は棒圧着端子使用)【右表参照】

- 電線の被覆をむく。
 [本体のストリップゲージに電線を合わせ、15 mmむく]
- 電線を差込む。
 [電線挿入口から入れ、オレンジ色の接続完了表示が出るまで差込む]

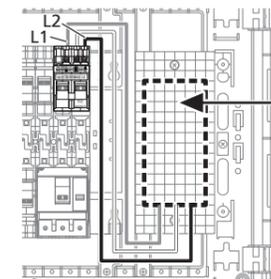
注意 ●電線の変形・腐食は、発熱・発火の原因になります。電線をむき直してから接続してください。
 ●オレンジ色の接続完了表示が出ない場合は、接続が不十分です。発熱・発火の原因になりますので電線のむき長さを確認の上、接続し直してください。

*電線を抜く場合は、解除レバーを矢印方向(←)に押しながら電線を引いてください。
 [φ2.6および8.0 mm²電線は抜きにくい場合がありますので、本体を分電盤から取外し、電線を抜いてください]

注意 解除レバーの操作力は約7 Nです。押込み荷重が高すぎる(100 N以上)と破損にいたる場合があります。

- 100 V回路の場合、分岐ブレーカ負荷側端子のL相とN相を正しく接続してください。

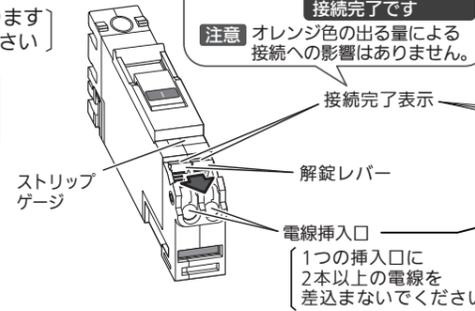
◆センサユニットへの接続



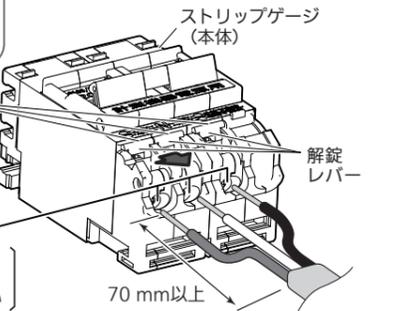
※ご使用の太陽光発電システムメーカーにより仕様異なります。センサユニット側の電線接続についてはセンサユニットの説明書をご確認ください。

接続可能電線	適合棒圧着端子品番 パナソニック製	注意事項
Cu(銅)単線		定格電流 30 Aは接続不可
		φ1.6 φ2.0 φ2.6
Cu(銅)より線	BB9924	定格電流 20・30 Aは接続不可 定格電流 30 Aは接続不可
	BB9921	
	BB9923	
		1.25 mm ² 2.0 mm ² 3.5 mm ² 5.5 mm ² 8.0 mm ²

分岐ブレーカ



計測機器電源用ブレーカ

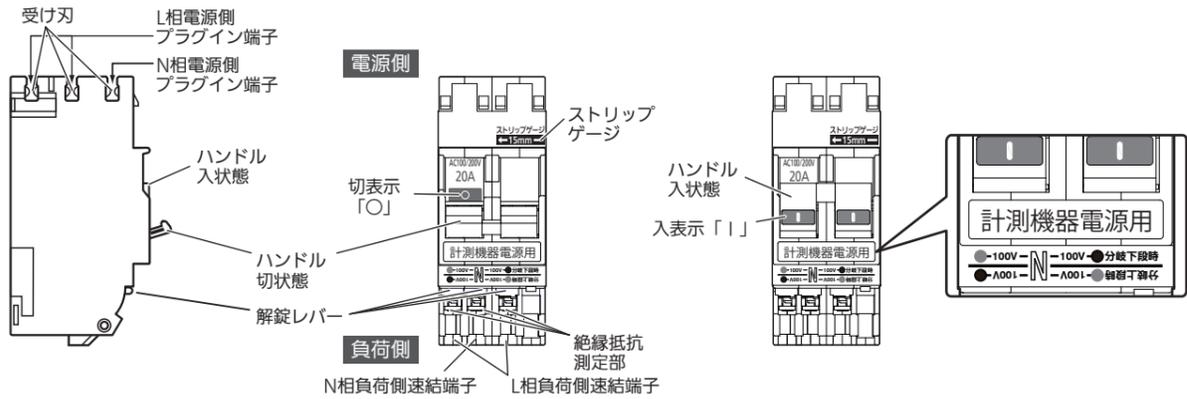


注意 接続電線は電線処理範囲内で配線してください。
 [範囲外に出ますと住宅分電盤のカバーが取付けできません]

67 mm ガタスペース
 電線 38 mm
 カバーまでの距離

注) 分岐ブレーカの配線によってアース端子への配線が困難になる場合がありますので配線方法にご注意頂きますようお願いいたします。

SH-20M



計測機器電源用ブレーカ

注意

以下の項目を厳守してください
 ~守らないと、火災のおそれがあります~

■ 接続上のご注意

【主幹ブレーカへの電線接続について】

- 端子は圧着端子専用です。定格電流に適合した圧着端子を使用し、接続してください。

定格電流	適合圧着端子
40~60 A	14-6(同梱)※ 22-6S
75 A	CB22-6S(同梱)※ CB38-6N
100 A	38-8S(同梱)※

※リミッタースペースなしの商品に同梱。

- 端子ねじは適正締付トルクで確実に締付けてください。

[接続不良は、発熱・発火の原因や中性線欠相事故による負荷機器の故障の原因になります]

ブレーカタイプ	フレーム	ねじ径	適正締付トルク N・m
ABF型	50 AF・60 AF・75 AF	M6	3.0~4.0
	100 AF	M8	5.5~7.0

- 単相3線式の中性線を中極に、電圧線(200 V)を両端極に接続してください。(単相3線式専用です。単相2線式回路などには使用できません)

- 施工時、機器内部に異物(電線くずや壁材など)が入らないようにしてください。

- 施工完了後、端子カバーを確実に取付けてください。

- 工事完了後、ハンドルを「I」にしてからテスト釘を押して、動作の確認をしてください。

【連系ブレーカへの電線接続について】

- 負荷端子(M5)への接続は、定格電流に適合した電線・圧着端子を使用し、絶縁キャップを必ず装着してください。また、1つの端子へ2本以上の電線を接続しないでください。

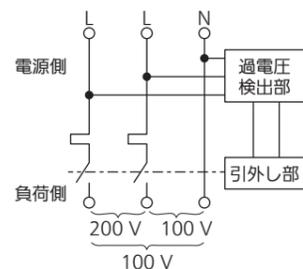
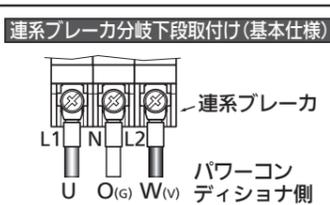
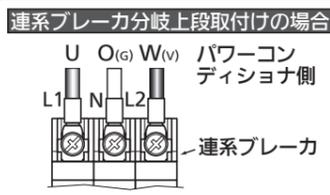
定格電流	電線サイズ	適合圧着端子
30 A	5.5 mm ² , 8 mm ²	5.5-5, 8-5
40 A	8 mm ²	8-5
50 A	8 mm ²	8-5 ※

※50 A時の接続電線はCVケーブルをご使用ください。

- 端子ねじは適正締付トルクで確実に接続してください。
 適正締付トルク：2.0~2.5 N・m

■ パワーコンディショナとの接続

- 連系ブレーカの取付け位置と端子配列に注意して配線を行ってください。
- 端子への電線接続は適合圧着端子を使用し、絶縁キャップを必ず取付けてください。



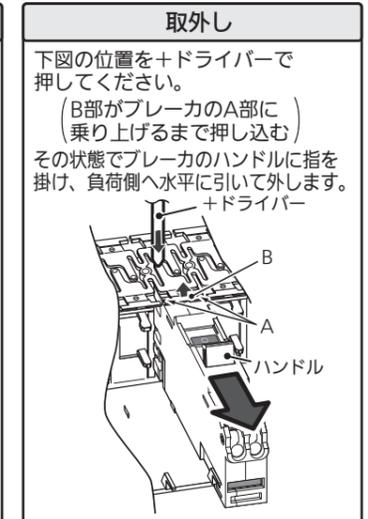
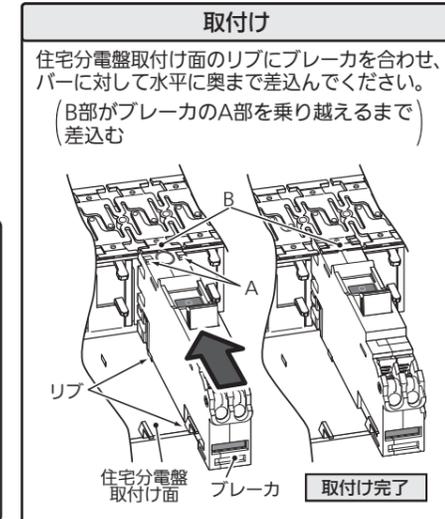
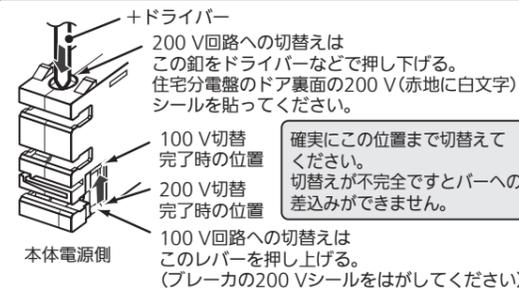
■ 分岐ブレーカの取付け・取外し

【取付け前に(2P2Eタイプのみ)】

- プラグイン端子の受け刃の位置を確認してください。

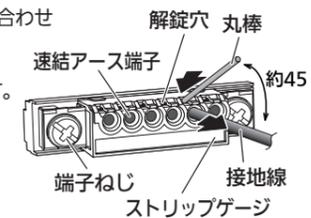
[負荷の使用電圧に合わせ、受け刃の位置を切替えてください。住宅分電盤に取付けた状態では切替えできません]

《切替え方法》



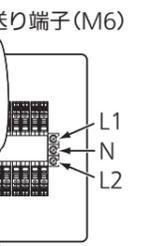
3 速結アース端子への電線接続と解錠

- 速結アース端子への接続は接地線をストリップゲージに合わせ15 mmむき、奥まで確実に差込んでください。
 *接続電線：φ1.6・φ2.0・φ2.6 Cu(銅)単線専用
- 端子ねじへ接続する場合の接続電線は最大5.5 mm²です。(圧着端子を使用してください)
 適正締付トルク 2.0~2.5 N・m
- 接地線を抜く場合は、解錠穴へφ1.6~2.0の丸棒(精密ドライバーなど)をしっかりと奥まで差込み、接地線を引いてください。(右図参照)



4 送り端子への電線接続

- 送り端子(M6)への接続は、圧着端子を使用してください。
- 端子ねじは適正締付トルクで確実に接続してください。
 適正締付トルク 3.0~4.0 N・m
- 接続後は保護カバーを確実に取付けてください。



パナソニック株式会社
 パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社

〒571-8686 大阪府門真市門真 1048 番地 TEL (代表) 06-6908-1131

©Panasonic Corporation 2012

8M7 715 003
 PC0208-20418

■施工電気工事業者様へのお願い

- 施工終了後、電気工事業者名欄にご記入ください。
- この取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

施工電気工事業者名			
TEL	()	施工年月日	年 月 日

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社
パナソニック スイッチギアシステムズ 株式会社
〒571-8686 大阪府門真市門真 1048 番地 TEL (代表) 06-6908-1131

Panasonic®

(※1) 自家発電対応
住宅分電盤



8M7 714 007
取扱説明書
(保管用)

<対象製品番号はカタログなどでご確認ください>

(※1) 自家発電＝太陽光発電、ガス発電、燃料電池

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

安全に関するご注意



警告



禁止

- カバーは絶対に開けない
感電する場合があります。



必ず守る

- 異常（発熱・臭い・煙など）がありましたら
直ちに主幹ブレーカを「切」にして、
連絡先または電気工事業者へ連絡する
火災のおそれがあります。

- 安全にご使用いただくため、定期点検を電気工事業者へ依頼
されることをお奨めします。
- 有資格者以外の電気工事は法律で禁止されていますので絶対に
行わないでください。

使用上のご注意

- 住宅分電盤の前面には、ものを置かないでください。
- ブレーカを日常のスイッチとして使用しないでください。
- 下記のような環境では使用しないでください。
高温・多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃など
- 住宅分電盤表面の汚れは、乾いた布または中性洗剤を軽く
湿らせた布で拭き取ってください。



薬品やアルカリ系・
酸性系などの洗剤

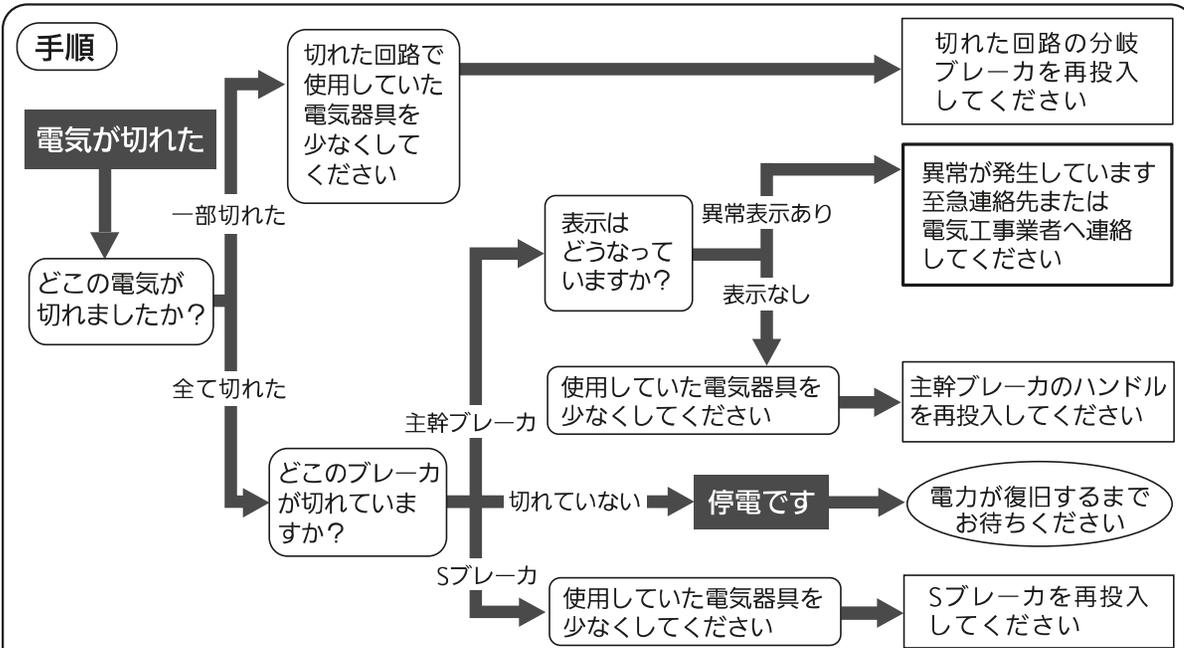


乾いた布による拭き取り
中性洗剤の使用
(軽く布に湿らせてご使用ください)

注意 分岐回路表示ラベル部は乾いた布をご使用ください。
(湿った布の使用は、表面がにじむことがあります)

電気が切れたときの処置手順

■電気が切れたときの処置【主幹ブレーカ動作時、ハンドルの繰り返し投入は避けてください。】



連系ブレーカ動作時の対処

●ブレーカ動作の原因

①太陽電池側連系ブレーカの場合
表示があるもの

電圧異常表示	表示なし：白	過電流による動作
	表示あり：黄	過電圧による動作

表示ボタン（黄色）があるもの

表示ボタン	出していない	過電流による動作
	出ている	過電圧または漏電による動作

②ガス発電、燃料電池側連系ブレーカの場合
過電流による動作です。

●対処方法

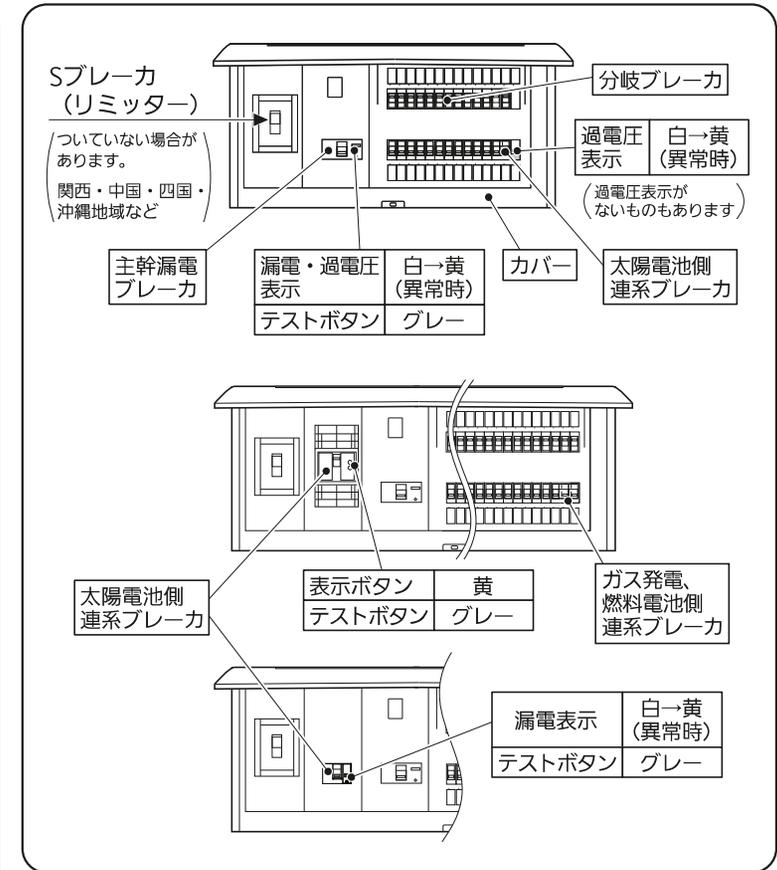
ブレーカのハンドルを再投入してください → 入る → **正常**

入らない

異常が発生しています
至急連絡先または電気工事業者へ連絡してください

主幹ブレーカ動作確認手順

■各部のなまえ



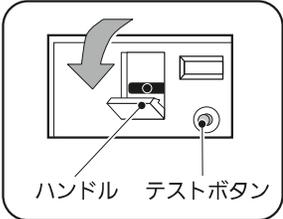
注1) 停電または点検などにより電力供給が停止された場合、負荷バランスによっては連系ブレーカが動作する場合があります。

■停電復旧時の確認事項

・主幹漏電ブレーカ、連系ブレーカ共にON [I] になっていることを確認してください。

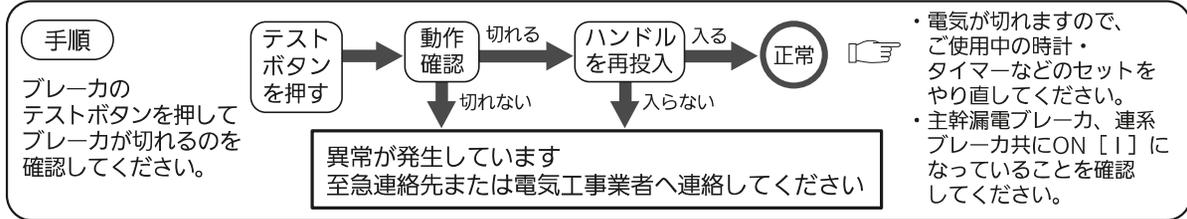
注意
連系ブレーカがOFF [O] になっている場合は、自家発電側から電力が供給されません。

■動作確認概略図



■主幹漏電ブレーカおよび連系ブレーカの動作確認と復旧の手順

定期的に主幹漏電ブレーカ、連系ブレーカ（※3）の動作確認をすることをお奨めします。（年1～2回）



（※3）テストボタンがないものはテスト不要です。

・電気が切れますので、ご使用中の時計・タイマーなどのセットをやり直してください。
・主幹漏電ブレーカ、連系ブレーカ共にON [I] になっていることを確認してください。